

研究室 訪問



教育学部 教育学科
西岡 正子 教授

各国のフィールドワークを通して見解する 生涯学習を基盤とした男女平等教育

カナダやアメリカ、台湾など海外での綿密な現地調査やアンケートなど多くの資料から教育における諸外国と日本との比較をされている西岡先生。研究仲間や学生とのコミュニケーションを大切に研究への想いを伺いました。

生涯教育を研究されているのですよね？

はい。現在、生涯教育のなかの男女平等教育について特に研究を進めています。「男女平等教育」と一言でいっても、国によって捉え方や現状が違い、それによって課題も異なります。

世界的なレベルで考えるにはまず、ローカルな視点を忘れてはいけません。ここで言う「ローカル」とは、グローバルに対比する言葉。世界に対して、国・地域・各家庭単位を指しています。日本についての研究を中心にしていますが、日本だけの研究・調査を進めるのではなく、諸外国の価値観や社会基盤を捉えたいうでの比較から考えています。「己を知るにはまず他者を知ることから」という視点です。諸外国と日本では、社会体制や教育内容が全く違うのに、同じ方法や課題を突きつけても意味がないからです。

例えば、アメリカでは2歳児からディスカッショ

ンを日常的に行い、自分の意見・個性を出すことが大切だと教育されてきているのに対し、日本では協調性や一方的な講義中心の教育環境が与えられています。この段階でも全く正反対ですよね。最近、日本社会では「個性の時代」と言われていますが、これは酷な話でしょう。個性を出すような教育・訓練を一切受けてこなかったのですから。文化や人々の考え、しつけ・教育がアメリカとは全く異なるのに、突然アメリカのようになど、できるわけがありません。また実際それを受け入れる文化や社会ではないのです。模倣だけでは意味がありません。日本を含めた諸外国の文化や社会と教育との関わりの全体像を明らかにしていき、諸外国との比較を通して、日本の問題を提起し解決していきたいと思っています。

今日、グローバルな課題だと言われているジェンダー平等教育においては、世界的視野の中で日



本の教育がどのような特色を持つのかを明らかにしていきたいと取り組んでいます。これまでも社会的問題としてのジェンダー不平等については論議が行われ、さまざまな指摘もされているのですが、教育学ではまだ明確に研究されたことがないという未知なる部分です。高齢者教育やキャリア教育に関しても同様の姿勢で研究を重ねてきました。

研究に際して私が心がけていることは、研究における「バランス」感覚です。研究に必要な調査を進めるにあたって質的・量的に必要な内容をどちらにも偏ることなく捉えるバランスとでも言えばわかりやすいでしょうか。「質的研究」とは、事例研究等も入りますが、歴史的背景、知識や人の感情といった深く捉える必要のある内容。そして「量的研究」とは、たくさんの人のアンケート結果や数字から見られる全体や社会を捉えるうえで必要な情報と考え、同じテーマでも質的・量的の両方から研究するよう心がけています。最近ではコンピューターが発達して、様々なデータの解析が容易になり、新しい解析方法を楽しんでいます。

最近の話題を聞かせてください。

最近、京都府を中心とした地域の取り組みに積極的に参加しています。例えば、京都府生涯学習審議会の委員として、京都府生涯学習推進ネットワーク委員会の会長をさせていただき、さまざまなプロジェクトへの取り組みをしています。そのなかの一つとして、生涯学習の機会において南北格差の大きい京都府の対策として、e-learningによる生涯学習を実験的に行いました。各家庭のパソコンはもちろん、IT拠点の大型モニターで集合e-learningを可能にし、幅広い年齢層への対応を考えたものです。これからはもっと発展、充実させていきたいと思っています。

ほかにも、京都市の「人づくり21世紀委員会」の顧問をさせていただいたり、教育委員会などでつくった「みやこ子ども土曜塾」で佛教大学の学生や地域の高齢者、小学生とよさこい踊りを一緒に学んでいます。どれもが研究にも結びつく内容で興味深いうえ、私の持っている知識や情報を皆さんに提供できるので、実践と研究を同時に楽しんでいます。

それから、年々痛感していることとしては「人

とのつながり」の大切さ。研究者になりたての頃は、研究は1人でする孤独な作業と捉えがちでした。確かにその部分も大切ですが、むしろたくさんの仲間や協力者の存在が大きな役割を果たします。研究対象である諸外国（昔研究員として滞在していたアメリカや近年興味を抱いている台湾、また昨年客員教授として滞在していたカナダ）では、みんなが私の研究のために、インタビューのための人を集めたり、当日時間を合わせられるよう段取りをつけてくださったりと、行った先々で温かい歓迎を受けています。忙しいなか集まってくれる人たちはみな、利害関係のない人や研究仲間です。彼らの力なしには研究など到底ありえないくらいだと痛感していますし、日々感謝せずにはいられません。そんな「人」に恵まれ、支えられているのはとても幸運なこと。感謝しながら、これからも研究を進めていくのが私の使命であると思っています。

通信生へメッセージをお願いします。

生涯学習時代の先駆者であることを自負していただきたいですね。最近、「楽習」などという言葉が使われ、楽しいだけの学習を強調されていますが、大学ともなると学習は楽しいことばかりではありません。学問を追及することとは本来苦しいことなのです。その苦しきのなかから、真の学びの喜びを見出してほしいと思います。さまざまな環境で大変だとは思いますが、悩みつつ、探りつつ頑張っていただきたい。いつか道は開けます。

PROFILE



にしおか しょうこ

1949年生まれ。京都府立大学文学部卒業後、1978年にはアメリカ合衆国州立インディアナ大学大学院教育学研究科成人教育学専攻修士課程修了（Master of Science in Education）。1981年、オハイオ州立大学大学院教育学研究科にて成人教育学専攻の後、同大学国際研究室研究員となる。1988年より佛教大学教育学部に勤務にて現在に至る。2003年4月から

2004年3月までカナダ・カルガリー大学客員教授を勤める。京都市人づくり21世紀委員会顧問、京都府生涯学習推進ネットワーク会長、京都府社会教育委員などとして活躍。